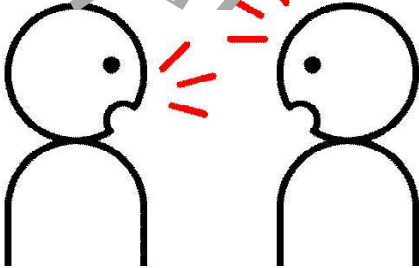


すばる

白岡市立南中学校
校長室通信
平成27年4月20日

No.5

大声で話す いわゆる TP0のこと



休日に自宅の最寄り駅前で人を待っているときのこと。南中ではないが、中学生の部活動の試合帰りだろうか、サッカー部だと思われる集団がやってきた。際立ったのは、その声の大きさである。少々離れたところにいるにもかかわらず、その話す内容がほとんど聞き取れるほどだ。何もそんなに叫ぶような声で話したり笑ったりしなくてもいいのにと感じるほどの大きな声で実に賑やかな会話だ。ここはグラウンドでもなければ試合中でもないのに。そういえば、近頃、コンビニや駅でも大きな声の若者の集団に出会うことがあるし、下校途中の中学生の中には、そういった声の調子で話しているのを見かけることがあった。公共の場で大声で話すのは、飲み会帰りのおじさんたちだけかと思っていたが（笑）、中高生（中高年ではない）にも周囲にいる人を全く意識していないような声の調子で話すような者がけっこういるようだ。集団だから気持ちが高揚するのだろうか、それにしてもけっして上品ではない。

公共の場でのマナー。自分を振り返ってみると、職業柄なのか、よく声が大きと言われることはある。他の人よりトーンの高い話し方をしているかもしれない。気づかぬうちに周囲に怪訝な顔をされていた可能性はあると思って、反省した。しかし、前の中学生のように大声で傍若無人に話してはいない。それは誰から教わったのか覚えていないのだが、場に応じた態度をとるように心がけてはきた。

いろいろな人が行き交う場所でのとるべき態度というのはある。ルールではないがマナーである。学校も公共の場、声を出すべき場面とマナーとして慎むべき場面がある。声の大きさもまた場面に応じて変化する。運動の部活では意識的に声を出さなければならないだろうし、あいさつの場面では、はっきりとさわやかにするべきだと思う（それを練習する場でもある）。小学校では時々、低学年の子どもの「悲鳴のような」声に出くわすことがあって、ドキッとさせられたことがあったが、いくら夢中になっていても、出してはいけない声があることを教える必要を感じた。その他にも、ポケットに手を入れて歩いたり、口笛を吹いたりしてはいけないと、校則で定めるようなものではないが、指導すべき事柄だと思っている。

そんなことを考えていたら、休み時間になった。校長室前の廊下で誰かが友人を呼ぶ声がする。「お～い、〇〇！ちょっと待てよ！おまえふざけんな！」パタパタパタ…（走り去る音）おいおい、それはまずいだろ。校長室の前を「抜き足差し足」で通る必要はないが、その大声はまずい。朝の校門での「おはようございます」のあいさつの声が小さいことが気になっていたところに、これはない（苦笑）。朝の生徒と廊下を通った生徒は違うのだろうが、大いに気になることである。



ボボボボ～ン